

北九州市文化振興計画 改訂版

(成案)

～文化芸術が育む我がまちへの誇りと愛着～

北九州市

目 次

第1部 総論

- 1 文化振興計画の改訂にあたって . . . 3
- 2 文化芸術を取り巻く現状と課題 . . . 6
- 3 計画のコンセプト . . . 11

第2部 「元気発進！北九州」プランにおける主要施策に基づく取組み

- 施策1 市民の文化芸術活動の促進 . . . 15
- 施策2 市民が文化芸術に接する機会の拡大 . . . 18
- 施策3 発信力の高い文化芸術の振興 . . . 21
- 施策4 文化芸術の担い手の育成 . . . 27
- 施策5 地域における伝統文化の発掘・継承 . . . 30
- 施策6 近代化遺産など文化財の保存・継承 . . . 32
- 施策7 文化芸術によるまちづくり . . . 34

第3部 主な拠点施設における取組み

- 1 文学の拠点～文学館、松本清張記念館、図書館 . . . 39
- 2 音楽の拠点～響ホール、北九州ソレイユホール . . . 44
- 3 美術の拠点～美術館
門司港美術工芸研究所、現代美術センター・CCA 北九州 . . . 46
- 4 舞台芸術の拠点～北九州芸術劇場 . . . 48
- 5 メディア芸術の拠点～漫画ミュージアム、松永文庫 . . . 50
- 6 自然史や歴史、地域文化の拠点
～自然史・歴史博物館、埋蔵文化財センター、
長崎街道木屋瀬宿記念館 . . . 52

資料編

【第 1 部】

総 論

1 文化振興計画の改訂にあたって

(1) 文化振興計画の改訂

人が人としての営みを持ち、心豊かに生きていくために、文化芸術は多様な力を発揮します。文化芸術が持つ感動を享受することや、文化芸術で培われる想像(創造)力を通して、子どもたちの育ちや、豊かな社会が育まれるだけでなく、新しい産業や新しいまちを創り出す可能性も広がります。そのため、新しい時代を創り出す重要な要素の一つとして、世界の様々な国やまちで文化芸術は振興されているのです。

北九州市においても平成22年に「北九州市文化振興計画(目標年次:平成32年度)」を策定し、地域文化の保存・継承や文化芸術の振興に積極的に取り組んできました。そのなかで、文学、音楽、美術、演劇に加え、さらにメディア芸術など幅広い文化芸術が全国的に注目を受けるようになってきました。

平成27年7月には「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」がユネスコ世界文化遺産*1に登録されました。これは過去から引き継ぎ、未来へと伝えていかなければならない人類共通の遺産であり、まさに文化と同じく世界人類の共有の財産であるといえます。

一方、「文化や芸術に関する市民意識調査」(平成27年8月)においては、本市のことを文化の薫るまちと「思う」という意見は少なく、まだまだ市民にとって、文化芸術が身近なものとして感じられていないことが伺えます。

文化振興計画を策定してから5年が経過しました。この5年で日本をはじめ世界の国々において、文化芸術を取り巻く環境は著しく変化しています。北九州市民がより一層文化芸術に触れ、豊かな社会を育むために、過去5年間の取組みの成果や課題を踏まえ、我がまち北九州市にふさわしい新たな取組みを充実・発展させていきます。そこで、これまでの文化振興計画を見直し、次の5年間で実施する新たな文化振興計画に改訂します。

(2) 文化芸術の果たす役割

本市は、製鉄からはじまり、ものづくりのまち「北九州」として発展するなか、空港や港湾、道路といったインフラ整備は充実しました。また自動車やロボットをはじめ、生活に密着した機器の開発から生産に至る次世代産業の高度化によって、地域の産業に厚みも生まれ、産業・経済の分野で多くの成果を生んできました。

用語解説

*1 ユネスコ世界遺産／国際連合教育科学文化機関(ユネスコ)が、「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」に基づき世界遺産リストに登録する、過去から引き継ぎ、未来へと伝えていかなければならない人類共通の遺産。世界遺産には、文化遺産、自然遺産、複合遺産の3つの種類がある。

一方で、本市を取り巻く社会環境は、超高齢・少子化社会の到来に伴う社会構造の変化、インターネットの普及など高度情報化の進展、ライフスタイルや価値観の多様化など、大きく変化してきています。また、多様な価値観を求め首都圏をはじめとする大都市へ流出する若い世代への対応や、高齢者や障害がある方、日本語に不慣れな在住外国人の方などの社会参加の促進も、本市の課題となっています。

これらの課題に対応するには、文化芸術の持つ力を積極的に活用することが肝要です。殊に将来、地域を支える子どもたちの想像(創造)力と感性の育成は重要で、文化芸術活動がもたらす精神活動の充実や豊かな人間性は、シビックプライドの醸成につながり、ひいては成熟した魅力あるまちづくりを可能にします。

文化芸術による創造的な活動は、新たな付加価値の創出や地域社会の活性化の原動力ともなり、まちのにぎわいづくりにもつながり、全国から創造性の高い人々が集まる土壌となるはずです。

(3) 本市における文化芸術の歴史

北九州市は、小倉藩の城下町や長崎街道の宿場町として栄え、明治以降は官営八幡製鐵所の創業を機に、工業都市として顕著な発展を遂げました。かつては日本の四大工業地帯の一つとして栄え、そして最近では公害の克服に成功し、国際的にも評価される環境都市へと生まれ変わりました。

このように発展してきた本市には、大陸貿易の重要な拠点である門司港と官営製鐵所を中心に形成された国内有数の工業地帯があったことで、大陸や首都圏などから人や情報が流れ込み、地域の文化と交わる「文化先進地」として栄えた歴史があります。

また、八幡製鐵所をはじめとする企業集積地ならではの「会社」を軸とした文化活動(会社内のクラブ活動や社宅つながりの同好会活動など)が広がりを見せたことも、本市の文化芸術の発展に大きな影響を及ぼしました。

このような歴史を背景に、本市では、文学、音楽、美術、演劇、伝統芸能、生活文化など、幅広いジャンルにおける文化活動が活発に行われ、今に続いています。そのような市民の熱心な文化芸術活動が、「美術館」「図書館」「響ホール」「松本清張記念館」「自然史・歴史博物館」「北九州芸術劇場」「文学館」などの、それぞれに特徴のある文化施設の開設につながりました。

また、さまざまな文化団体や NPO 法人などを通じて、あるいは個人的に文化芸術に積極的に取り組む市民が多く、現在でも活発な活動を続けています。

平成24年8月には、漫画の持つ魅力や特性を幅広い世代に伝え、情報発信する「北九州市漫画ミュージアム」が開館しました。映画においても、平成12年に北九州フィルム・コミッションが設立され、撮影に対する徹底したサポートが、テレビ・映画・CM業界から厚い信頼を得ています。

文化財では、旧石器時代から人々の暮らしの様子をうかがわせる数多くの遺跡が存在し、祭りや神楽などの伝統文化もしっかりと受け継がれています。

このように北九州市には、長い年月をかけて培われてきた、文化芸術に親しむ土壌があり、それを育むことで大きく花開くことが可能となります。

(4) 「文化芸術の街」に向けて

近年、「創造都市」と言われる新しいまちづくりに取り組む自治体が増えています。

「創造都市」とは、産業の空洞化と地域の荒廃に悩む欧州の都市が、文化芸術の創造性を生かした都市再生に取り組み、成功を収めたという事例に基づくまちづくりの考え方です。本市においても、市民が暮らしの中でにぎわいや豊かさを感じ、都市としての魅力を向上するためには、文化芸術をまちづくりに生かしていくことが重要であると考えています。

また、市民が地域において歴史や伝統、優れた文化に関わることは、地域との結びつきを強め、そこに住む人々どうしの絆を育みます。そうした活動は、市民自身が住んでいるまちや、働いているまちを「誇り」に思い、「愛着」を感じ、そしてこのまちに関わっている一人であるという当事者意識を持つことにつながります。このまちへの思いこそが「シビックプライド」です。そして、「シビックプライド」で大切なことは、市民がまちをより良いものにするために、ボランティア活動などの社会参画や、都市の印象を形成するようなアート、祭り、スポーツに関与するなど、自発的に行動を起こすことです。

北九州市が目指すのは、この地域の国際性を意識する中で、市民が「シビックプライド」を持ち、文化芸術の活動を通じて、我がまちに対する思いを行動へと移すことで、かつて欧州で再生した「創造都市」のような、人々を惹きつける魅力ある都市へと変貌していくことです。そのために、市民が暮らしの中で、文化芸術に気軽に触れ、鑑賞し、楽しむ機会を増やししながら、我がまちの魅力を向上していく取組みを進めていきます。

2 文化芸術を取り巻く現状と課題

(1) 国における現状や変化

① 地方創生*1

人口減少社会の到来や少子高齢化の影響、都市部における単身世帯の増加の影響などにより、地域コミュニティの衰退と文化芸術の担い手不足が指摘されています。

文化芸術、街並み、地域の歴史等を地域資源として活用し、特色ある取組みを展開することで、地域の活性化を図る新しい動き、「地方創生」の実現が期待されています。

② 2020年オリンピック・パラリンピック東京大会

2020年のオリンピック・パラリンピック東京大会は、我が国の文化や魅力を世界に示し、文化芸術を通じて世界に貢献するまたとない機会です。2020年東京大会の開催効果を広く全国に波及させるため、全国の自治体や芸術家等の連携の下、地域文化を体験してもらう文化プログラムを、全国で実施することになっています。また、リオ大会(2016年)の終了後に、オリンピックムーブメントを国際的に高めるための取組みを始めることになっています。

③ 震災と文化芸術

東日本大震災を契機に、文化芸術の果たす役割の重要性が改めて認識されました。被災地では、従前の状態に復旧するのではなく、人口減少・高齢化・産業の空洞化などの課題を解決し、世界のモデルとなる「創造と可能性の地」としての復興が期待されています。人々の心を支え、未来への希望をつなぐ文化芸術の力が、同じような課題を抱える地域の再生に求められています。

④ 情報通信技術の発展

インターネットなどの情報通信技術の急速な発展と普及は、情報の受信・発信を容易にし、人々の生活に大きな利便性をもたらしています。加えて、多様で広範な文化芸術活動の展開や創造に貢献するものと期待されています。

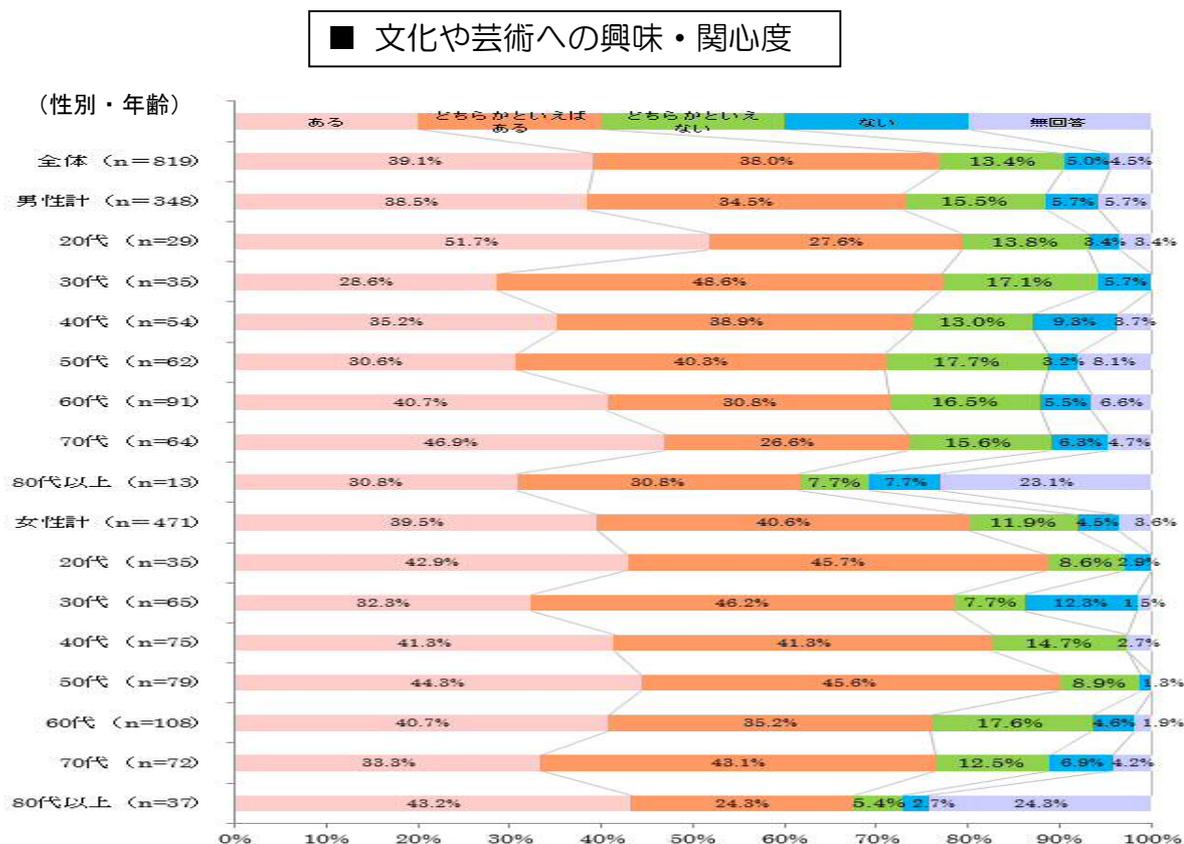
用語解説

*1 地方創生／少子高齢化対策や東京一極集中の是正といった、全国的な課題の解決に向けて、政府と自治体が一体となって進めている取組みを指す。また地方が、それぞれの特徴を生かした自立的で持続的な社会を形づくること。魅力ある地方のあり方を築くこと。

(2) 市民の意識や現状

① 市民の文化や芸術に対する興味・関心度

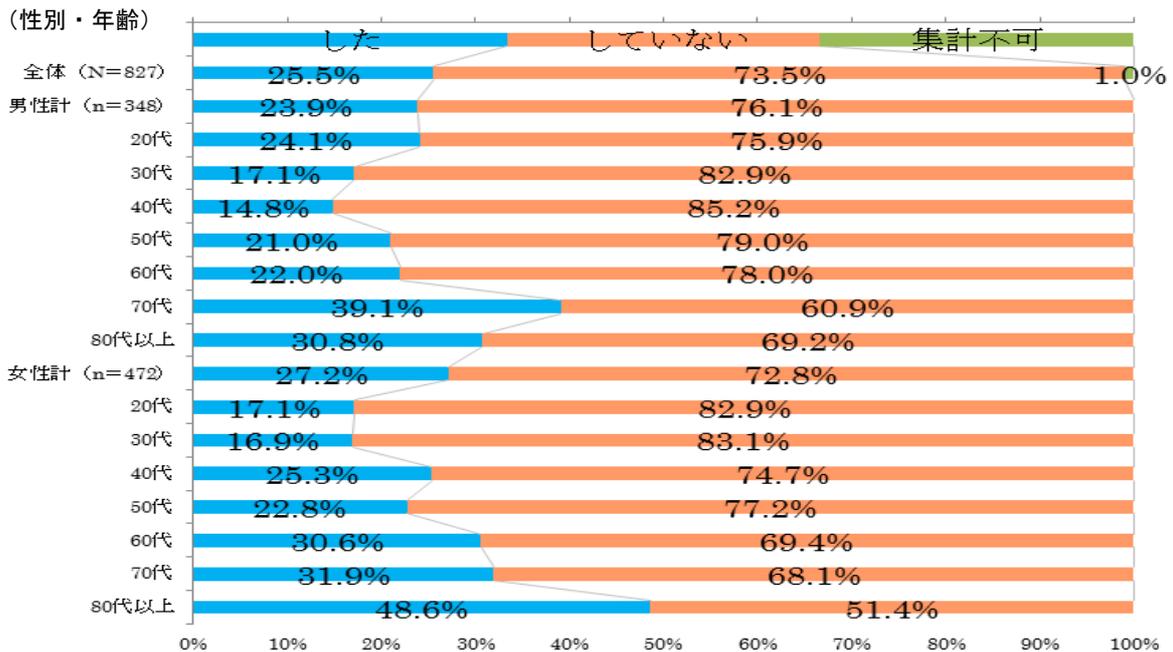
「文化や芸術に関する市民意識調査(平成27年8月)」によると、文化芸術に興味・関心が「ある」「どちらかといえばある」と回答した人は7割を超えています。性別・年齢別に見てみると、女性が男性を6ポイントほど上回っています。また、20代と50代の女性の9割近くは、興味・関心が「ある」「どちらかといえばある」と回答しており、多くの市民は文化芸術に興味・関心があり、特に女性が高い傾向にあると言えます。



② 市民の文化や芸術に関する活動の有無（鑑賞を除く）

「文化や芸術に関する市民意識調査」で、最近1年間の文化や芸術に関する活動の有無について尋ねたところ、7割の人が「していない」と回答しました。70代以上の男女は3割を超える人が活動「した」と回答しているのに対し、20代の女性、30代の男女、40代の男性で文化芸術活動を「した」人は2割にも満たない現状です。働く世代(20～40代)の人ほど、文化芸術活動をしていないという現状があります。

■ 文化や芸術に関する活動の有無



③ 文化振興施策に対する評価や意見

本市では市民3,000人を対象に行う「市民意識調査(平成27年12月)」において、34項目の行政施策の取組み状況について評価し、順位付けを行っています。

文化振興施策の評価は、平成22年度の22位から平成27年度15位へと上昇しました。このことから、文化振興施策に対する評価は徐々に上がっていると言えます。今後も、より一層取組みを強化していきます。

また、「文化や芸術に関する市民意識調査」では、市民から文化振興施策に対して、さまざまな意見が寄せられています。

主なものとしては、「小学校の頃から、文化や芸術に触れ合う機会を増やして欲しい(40代女性)」、「まだ知られていない文化芸術が、たくさんあると思う(30代女性)」、「若年層が参加しやすいものがあれば良いと思う(30代女性)」、「興味のある文化について、情報をどこで収集してよいか分からない(20代男性)」、「市民が、北九州市の歴史や文化について、ふるさと自慢ができるようにして欲しい(80代女性)」などが挙げられています。

(3) これまでの本市の取組みと課題

① 主な取組み

本市はこれまで、文化芸術の振興のためのさまざまな取組みを進めてきました。特に平成22年12月、「北九州市文化振興計画」(計画期間:平成22~32年度)を定め、「市民が文化を身近に感じ、市民自身が文化を支えるまち」を理念とし、総合的に取り組んでいます。

その主な事業は次のとおりです。

★「子どもノンフィクション文学賞」の充実や、「林芙美子文学賞」の創設など、多くの文学者・作家を輩出した本市の豊かな文化的土壌を生かして、文学に関わる人材育成や情報発信に取り組みました。



子どもノンフィクション文学賞



音楽アウトリーチ

★子どもたちを対象とした、文化体験・育成事業を展開し、次世代の文化芸術を担う人材育成に取り組みました。

★本市のロケーションを生かして、映画・ドラマ撮影のロケなどを誘致するフィルム・コミッションの活動を積極的に展開し、数多くの作品を誘致しました。



映画・ドラマ撮影のロケ誘致



重留遺跡の広形銅矛

★郷土の歴史と文化に対する理解を深め、郷土愛を育むために、文化財施設の公開や文化財の保存・継承、埋蔵文化財の発掘調査を実施し、現地保存や報告書を刊行しました。

★平成24年7月に、黒崎副都心の都市機能の充実とにぎわいの再生を図るため、「黒崎文化ホール(黒崎ひびしんホール)」を新設しました。



黒崎文化ホール(黒崎ひびしんホール)



北九州市漫画ミュージアム

★平成24年8月に、漫画の魅力を幅広い世代に伝えるため、全国でも数少ない漫画文化の拠点である「北九州市漫画ミュージアム」を新設しました。

★平成25年4月に、市民の方々の文化芸術活動の発表の場として、八幡西区のコムシティ3階に「黒崎市民ギャラリー」を開設しました。



黒崎市民ギャラリー



官営八幡製鐵所旧本事務所

★平成27年7月、ユネスコ世界遺産委員会において、本市では官営八幡製鐵所旧本事務所ほか2施設が、「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」として、世界文化遺産に登録されました。

② 主な課題

「市民意識調査」などでの評価や意見、文化芸術をめぐる環境の変化、施策・事業の進捗状況、「文化振興計画改訂検討会」での議論・意見などを踏まえ、次のような課題があると考えています。

- 子どもや若者が優れた芸術に触れる機会が、まだ不足している。
- 偉人・先人の功績や軌跡を、十分に生かされていない。
- 創作活動や施設の運営を支える専門人材（プロデューサー、コーディネーター）が少ない。
- 働く世代の文化芸術活動が少ない。
- 地元大学との連携が不足している。
- 本市の優れた文化芸術について、効果的な情報発信ができていない。
- イベント情報の発信、文化施設利用において、ICT*1が十分活用されていない。
- 文化施設の一部は、建築後50年を経過するなど施設の老朽化が進んでいる。

用語解説

*1 ICT（Information and Communication Technology）／情報や通信に関する技術の総称。IT（Information Technology：情報技術）とほぼ同時に用いられるが、ネットワーク通信による情報・知識の共有が念頭に置かれた表現。

3 計画のコンセプト

(1) 計画の基本理念

北九州市は、次の基本理念のもと、文化芸術の振興に努めます。

基本理念

「市民が文化芸術を身近に感じ、市民自身が文化芸術を支えるまち」

北九州市は、ものづくりのまちとして発展する中で、大陸や首都圏などから人や情報が流れ込み、地域の文化と交わる「文化の先進地」として栄えました。また、企業集積地という地域の特色から、「会社」での社員の活動を軸にした文化活動が広がりを見せ、本市の文化芸術の発展を支えてきました。

このような誇るべき歴史や伝統、文化を、次代を担う子どもたちに引き継いでいきます。そして、市民が文化芸術に気軽に触れ、鑑賞し、楽しむ機会を増やすとともに、郷土を愛する心を育み、自発的に文化芸術活動に参加していただくなど、市民が中心となり、本市の魅力をより向上させていくための取組みを進めていきます。

(2) 4つの戦略による施策の重点化

基本理念に定める「市民が文化芸術を身近に感じ、市民自身が文化芸術を支えるまち」の実現を目指すため、この計画期間(平成28～32年度)において、次の4つの戦略により取組みの重点化を図り、文化芸術の振興に努めます。

【戦略1】 北九州市らしさや特長をさらに強化し、市民のシビックプライドを醸成する

伝統芸能や文化財、著名な作家を輩出している文学、漫画・アニメなどのメディア芸術といった、本市の文化芸術の強みを生かして、市民のシビックプライドをより高める施策を展開します。

【戦略2】 次代の担い手を育て、新たな文化芸術の創造につなげる

子どもたちが質の高い文化芸術を身近に観て、聴いて、体験して、感動する機会を増やすとともに、若手のアーティストが創造し、活躍できる環境の整備を進めます。また、文化芸術の担い手だけではなく、つなぎ手(コーディネーター)などの専門家を目指す人材の育成に努めます。

【戦略3】 文化芸術を生かした、ひとづくり、まちづくり、にぎわいづくりに取り組む

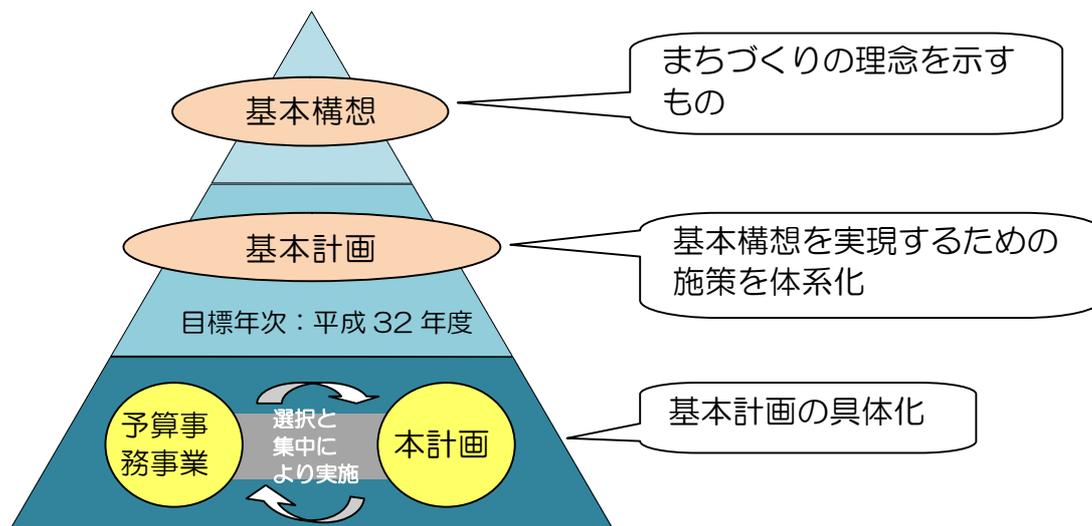
教育、福祉、観光、産業など幅広い分野と連携しながら、文化芸術の持つ底力を生かし、市民がいきいきと生きるまちづくりやにぎわいづくりを進めます。

【戦略4】 本市の文化芸術の魅力を国内外に、積極的に発信する

国内にとどまらず世界に向けた情報発信について工夫します。また、2020年のオリンピック・パラリンピック東京大会の開催に向けて、国と連携しながら、来日した外国人に地域文化を体験してもらう文化プログラムの実施を検討します。

(3) 計画の位置づけ

本計画は、平成25年12月に改訂された「元気発進！北九州」プラン（北九州市基本構想・基本計画）の部門別計画として位置付けられる、本市の文化芸術の振興に関する基本計画です。また、文化芸術振興基本法や国の「文化芸術の振興に関する基本的な方針（第4次基本方針）」に基づき策定しました。



(4) 目標年次

この計画の目標年次は、「元気発進！北九州」プランと同じく、2020年度（平成32年度）とします。

(5) 計画の見直しと評価

本計画の推進に当たっては、文化芸術を取り巻く環境の変化、市民ニーズや本市で活躍する芸術家などの意見、施策・事業の進捗状況や評価などを踏まえ、柔軟かつ適切に見直しを行います。

(6) 行財政改革の視点

本市の行財政改革の取組みを踏まえ、「行財政改革大綱」や「公共施設マネジメント」*1等効果的な施策・事業の実施を進めていきます。また市民の行う文化芸術活動に対し、今後も必要に応じて助成を続けていきますが、事業の公共性や目的によっては助成に頼らない自立した事業として行われることも考えられます。補助金等のあり方については、有効に活用できるように「選択と集中」の観点を十分に考慮して進めていきます。

用語解説

*1 公共施設マネジメント／市民の財産である公共施設を再構築する中で、将来における財政負担を軽減するとともに、将来のニーズを見据えて時代に適合したものとするため、今後40年間の公共施設のあり方を示した計画。

(7) 計画の構成

計画は、「総論」「元気発進！北九州プランにおける主要施策に基づく取組み」「主な拠点施設における取組み」の3部で構成しました。

「総論」では、計画の基本理念や4つの戦略による施策の重点化などについて記載しました。「元気発進！北九州プランにおける主要施策に基づく取組み」では、同プランにおけるまちづくりの取組みの柱の一つである「暮らしを彩る」*1のうち、「地域文化の保存・継承」と「文化芸術の振興」の中にある7つの主要施策に基づき、今後の方向性を示していきます。「主な拠点施設における取組み」については、主要施策と重なりますが、施設から見た切り口で記載しました。

(8) 用語の定義

「文化施設」とは、「北九州市芸術文化施設条例」に定める芸術文化施設と、「北九州市教育施設の設置及び管理に関する条例」「北九州市埋蔵文化財センター条例」に定める施設のうち、図書館、美術館、博物館、文学館及び史料館、埋蔵文化財センターとし、現時点では、以下のとおりです。また、その他の関連施設(小倉城庭園、文書館、大学等)を含める場合は、「文化施設等」と表記します。

【芸術文化施設】

① 劇場	北九州芸術劇場
② 音楽堂	響ホール
③ 市民会館・文化ホール	門司市民会館、若松市民会館、戸畑市民会館、アルモニーサンク北九州ソレイユホール、黒崎文化ホール(黒崎ひびしんホール)
④ 漫画ミュージアム	漫画ミュージアム

【社会教育施設】

① 図書館	中央図書館、国際友好記念図書館、門司図書館、若松図書館、八幡図書館、八幡西図書館、戸畑図書館、視聴覚センター
② 美術館	美術館
③ 博物館	自然史・歴史博物館(いのちのたび博物館)
④ 文学館	文学館、松本清張記念館
⑤ 史料館	長崎街道木屋瀬宿記念館
⑥ 埋蔵文化財センター	埋蔵文化財センター

用語解説

*1 「暮らしを彩る」／「元気発進！北九州」プラン(北九州市基本構想・基本計画)の分野別施策体系7つの柱のうち、文化芸術の振興が位置する柱。

【第2部】

「元気発進！北九州」プランに
おける主要施策に基づく取組み

施策1 市民の文化芸術活動の促進

基本的な考え方

市民が主体となった文化芸術活動においては、当然ながら市民がプレーヤーであり、鑑賞者(観客)であり、また、活動を支える存在でもあります。

そして行政は、企業などとも連携しながら、市民が活動しやすいように、ハード・ソフト両面での環境づくりを行う役割を担っています。

今後も、年齢、性別、障害の有無、国籍等にかかわらず、幅広い層の市民が参加する、生活に根ざした文化の振興について、市民や企業などと協力しながら支援を行っていきます。



北九州市民文化表彰式

今後の取組み方針

(1) 市民が行う文化芸術活動への支援・協働

本市には、北九州文化連盟や各区文化連盟など、地域別、ジャンル別に数多くの文化団体があり、そこでは市民が主体となり、盛んに文化芸術活動が行われています。この活動をさらに活性化できれば、子どもから高齢者、働く世代や子育て世代など幅広い世代が、それぞれのライフステージに応じ、好きな文化芸術活動に参加するチャンスが広がると考えています。そのためには、効果的な創作活動等の支援に加え、文化団体やNPO、企業、行政が連携していくことが重要です。

また、市民がより質の高い文化芸術を楽しむためには、創造する側、鑑賞する側、支援する側など関係者全体を俯瞰的に見ながら調整し、マネジメントする組織や専門家が必要となります。併せて、北九州市に活動の場を設けたい、作品制作や発表をしたいなどの、活動する際のさまざまな相談を受ける窓口も必要です。

このような文化芸術活動への支援を、市民や北九州市芸術文化振興財団*1 等関係団体、企業、行政が連携し、協働しながら、積極的に進めていきます。

【推進していく主な取組み】

- ① 各文化団体間の連携、協力のあり方の検討【戦略1】
- ① 高齢者や子どもなどの市民の創作活動の支援の検討【戦略2】
- 文化振興基金などを活用した文化芸術活動を行う団体への支援【戦略1】

用語解説

*1 北九州市芸術文化振興財団／昭和51年設立。市民の文化芸術の振興に関する事業を行うとともに、埋蔵文化財の調査、研究及び保護等を行い、市民生活の向上と市民の豊かな文化芸術の創造に寄与することを目的とする。市からの指定管理者として、北九州芸術劇場・響ホールなどの管理運営も担っている。

- 市民、民間団体が実施する文化芸術事業へのアドバイス 【戦略2】
- 地元演劇のレベルアップに向けた貢献【戦略2】
- 芸術文化情報センター*1の利便性の向上【戦略4】
- 市民活動の広報面でのサポート（ホームページ等の充実）【戦略4】

（2）文化芸術に係る表彰

本市では、文化芸術の各分野において功績が大きい個人・団体に「北九州市民文化賞」を、将来が期待される個人・団体に「北九州市民文化奨励賞」を授与しています。また、市制50周年に合わせ、長年にわたって地域の文化芸術の振興、発展に貢献し、その業績が特に顕著である方々を顕彰する「北九州市民文化功労賞」を創設しました。

引き続き、本市の文化芸術の振興に寄与した人を積極的に顕彰していきます。

【推進していく主な取組み】

- 北九州市民文化賞、北九州市民文化奨励賞、北九州市民文化功労賞を受賞した文化人の活動の場の提供 【戦略1】
- 北九州市文化大使によるPR【戦略4】

（3）文化施設の充実及び活用

利用者の活動状況で異なるさまざまなニーズを踏まえ、サービスや公演内容等について、柔軟で弾力的な運営に努めます。平成24年には練習室へのニーズの高まりを受け、黒崎文化ホール(黒崎ひびしんホール)にも大・中・小の5つの練習室を整備しました。また、ホールや練習室についても、演奏会等の予約がない場合は、練習目的での貸し出しも行っています。安全で利用しやすい文化施設とするため、施設のバリアフリー化や改修・修繕に取り組み、機能等の充実を図ります。

文化施設を運営する指定管理者とは、意思疎通を十分に図るとともに、管理・運営状況の評価を行い、日々の改善につなげます。さらに、施設の利用価値を効果的に高めるために、文化施設間のネットワークを構築します。

用語解説

*1 芸術文化情報センター／北九州芸術劇場が、文化芸術に関する情報を収集するセンター。市民ギャラリーの運営、演劇関係図書をはじめ舞台芸術を中心とした約3,000冊の蔵書管理、アート&エコスペースでの展示・催し、チケット販売や情報提供を行うインフォメーション・プレイガイドを有する。

【推進していく主な取組み】

- それぞれの文化施設等において、サービスの質を維持・向上するための具体策の検討【戦略1】
- アンケート結果等の施設運営への反映【戦略2】
- 演奏会等の支障にならないことを前提に、リハーサル室等空室の貸出を行う柔軟な対応【戦略2】
- 文化施設における案内表示（外国語表示含む）の更なる改善 【戦略4】

（４）文化施設の維持管理と今後のあり方

劇場・音楽堂・市民会館のホールは市内7か所に配置されており、美術館や自然史・歴史博物館、松本清張記念館など大規模な施設や、300席の小規模なホールまでその規模は施設により様々です。これらの施設の維持管理にかかる経費は、老朽化に伴う改修費などを含め、増加が見込まれています。

本市が今後、持続的に発展するためには、「選択と集中」という観点から施設配置の見直しや施設の維持管理等に係るコストの削減を行う必要があります。これらを踏まえ、「北九州市行財政改革大綱」や「北九州市公共施設マネジメント」などにに基づき、文化施設のあり方の検討を進めていきます。

【推進していく主な取組み】

- 北九州市公共施設マネジメントに基づく、文化施設の適正配置等の推進【戦略2】
- 中長期の視点に立った計画的な修繕・改修による文化施設の適正管理【戦略2】

施策2 市民が文化芸術に接する機会の拡大

基本的な考え方

市民自身による文化芸術に関する活動が活発に行われるとともに、行政も、市民が文化芸術に接する機会の提供を目的として、多様な取り組みを行っています。平成24年度には、黒崎文化ホール(黒崎ひびしんホール)、北九州市漫画ミュージアムが整備されました。



合唱組曲「北九州」演奏会

また、北九州芸術劇場、響ホール、美術館、自然史・歴史博物館などの文化施設においても、市民が日常生活の中で多様な文化芸術に接する機会や交流の場を、引き続き充実させていきます。

また、図書館については、文字、活字の文化振興の拠点として、地域文化の発展を支える知的基盤として、資料やサービスの充実を図ります。

今後の取り組み方針

(1) 文化芸術を提供する事業の実施・支援

子どもから若者、高齢者、障害のある人、外国人など、誰もが主体的に、優れた文化芸術に接する機会を享受できるよう、各文化施設では、音楽や演劇、舞踊、伝統芸能等の舞台芸術の公演、文学や美術等の常設展・企画展など、さまざまな事業に取り組んでいきます。



美術館展覧会の様子

また、働く世代や子育て世代が、主体的に文化芸術活動に取り組む契機となるよう、気軽に体験できる機会を提供します。

市内で実施している文化事業において、日程や対象者が重複する場合があります。より効率的、効果的に文化施策を進めるために、情報の集約や全体を調整する仕組みづくりを進めていきます。

【推進していく主な取り組み】

- 幅広いラインナップによる国内外の多彩な舞台芸術公演の実施【戦略1】
- 子育て中の母親を対象としたワークショップの開催【戦略1】
- 市民センター等での働く世代を対象とした文化芸術講座の充実【戦略2】
- 話題性や集客力の高い、魅力ある企画展の開催【戦略3】

- 書や篆刻などの企画展の開催【戦略3】
- 施設間での情報共有による主催事業等の調整・連携【戦略4】

(2) 広報のあり方、リピーターやファン等の獲得

文化芸術に関わる市民意識調査によると、「文化芸術の展示会や公演会の開催日がわからない」との意見があり、情報発信の不足が指摘されています。

今後は、市政だよりや新聞・フリーペーパーを活用した情報発信はもとより、スマートフォンやタブレット端末の普及を踏まえ、よりタイムリーで分かりやすい広報に取り組みます。また、情報の集約・一元化に努め、ターゲットを絞り込むなど、効率的・効果的な発信を工夫していきます。

さらに、リピーター等の獲得に向けて、チケットクラブや友の会、会員特典の付与等に加え、ホスピタリティ(おもてなしの心)の点でも施設利用者に満足いただけるよう、リピーターやファンの獲得に向けた取組みを広げていきます。

【推進していく主な取組み】

- 北九州ミュージアムウィーク*1の実施【戦略3】
- ホームページの充実をはじめ戦略的な広報の推進【戦略4】
- インターネットを活用したチケット販売の推進【戦略4】
- 多様な媒体を用いた広報のあり方の検討【戦略4】
- 情報の集約、一元化による効率的・効果的な発信【戦略4】

(3) 県や近隣自治体との広域連携

より一層の文化芸術の振興を図るためには、地域の枠を一步踏み出して、広域的な連携、連合を進めていくことが重要です。例えば、山口・北部九州の文化施設が連携し、情報共有や相互の情報発信を強化したり、時期や内容に関連性を持たせた展覧会を開催したりすることで、多様な文化芸術を鑑賞する機会を増やし、さらには人の回遊性も創出します。

また、福岡市との連携も重要です。ミュージアム(博物館)をキーワードにした「ウィンターミュージアム」は、両市にある多彩な文化施設などを紹介し、利用促進につなげることで、文化資源の連携を図るだけでなく、それぞれの都市の良さを理解する機会となります。

その他、ふくおか県民文化祭なども活用し、県内の文化団体で活動している方々に発表と交流の場を提供しています。県民文化の創造や発展を図るため、さらに福岡県との交流も密にしていきます。

用語解説

*1 北九州ミュージアムウィーク／北九州市内の文化芸術施設等(いのちのたび博物館・美術館・分館・漫画ミュージアム、木屋瀬宿記念館、文学館、松本清張記念館、埋蔵文化センター、松永文庫、森鷗外旧居、小倉城庭園、小倉城、北九州芸術劇場)が連携し、スタンプラリー等を活用しながらPRを行う。

【推進していく主な取組み】

- 北九州ミュージアムウィークの実施〈再掲〉【戦略3】
- 福岡県、福岡市との定期的な文化振興会議の開催【戦略4】
- 近隣自治体の文化施設（資源）との連携強化や情報発信の推進【戦略4】

施策3 発信力の高い文化芸術の振興

基本的な考え方

「文化芸術の取組みが評価され、市内外の注目を浴び、人が訪れる」そのような状況を作り出すことで、まちの発信力、文化力が高まります。

「文化芸術の街」としてのイメージを構築することが、本市が文化振興施策を進める上での課題となっています。そのためには、発信力、訴求力の高いイベント等が多くあるといった直接的な魅力だけでなく、高い市民意識に支えられた文化的なまちづくりが行われなければなりません。

本市は、どこの都市にも負けない、多様で優れた多くの文化資源を保有しています。文学の分野では、火野葦平や松本清張など著名な作家を輩出しています。メディア芸術の分野では、松本零士やわたせせいぞうなど個性が光る漫画家を輩出し、音楽の分野では、少年少女合唱団や中学校合唱部、吹奏楽部等が高いレベルを維持するなど、ジャンルは豊富です。

このように幅広い分野で、地域の活性化のけん引力となる、北九州発で発信力の高い文化芸術の振興を図ります。



北九州芸術劇場プロデュース
「《不思議の国のアリスの》
帽子屋さんのお茶の会」より

今後の取組み方針

(1) 劇場文化の創造

北九州芸術劇場は、北九州市における「劇場文化の創造」を目指し、さまざまな事業に取り組んできました。その結果、本市における文化芸術の振興のみならず、地域の活性化やまちづくりにつながる役割も果たし、経済波及効果や雇用創出効果も生み出してきました。

今後も引き続き、本市の文化振興施策をけん引する大きな柱として、事業の充実に努めていきます。

【推進していく主な取組み】

- まちのにぎわいづくりにつながる集客力の高い作品や話題性のある作品などの上演【戦略3】



北九州舞台芸術フェスティバル
「北九州芸術工業地帯」より

- 教育、福祉、商工（企業・商店街）、観光等、多様な主体との協働による、舞台芸術を地域の活性化に生かす取組み【戦略3】
- 国内外で活躍する表現者との創作活動や海外の劇場との共同制作など、舞台芸術の水準を向上させる取組みと全国及び世界への発信【戦略4】

（２）「文学の街」の施策の推進

① 文学館や松本清張記念館での取組み

文学館では、森鷗外、林芙美子、火野葦平、杉田久女など北九州市にゆかりのある著名な文学者を紹介し、本市の豊かな文学的土壌を情報発信しています。さらに全国的に著名な文学者や、テーマ別などの企画展を開催し、文学の啓発普及に努めています。また、小中学生が見たり、聞いたり、体験したりしたことを書いた作品を募集する「子どもノンフィクション文学賞」や、短編作品を対象に「林芙美子文学賞」を創設し、文化芸術の担い手の育成を支援しています。

松本清張記念館では、企画展や講演会の開催、中高生を対象にする読書感想文コンクールなど、全国に向けて情報を発信し、松本清張の「人と作品」の魅力を広く紹介しています。

【推進していく主な取組み】

- **新** 川柳を活用したまちのにぎわいづくり【戦略1】
- 現代作家の講演会や企画展等の開催【戦略1】
- 子どもノンフィクション文学賞の全国展開【戦略2】
- 林芙美子文学賞のPR【戦略2】
- あなたにあいたくて生まれてきた詩コンクールの実施【戦略2】
- 話題性や集客力の高い、魅力ある企画展の開催（再掲）【戦略3】

② 児童文学の顕彰

児童文学の分野では、詩人でもあるみずかみかずよ、語り童話の創作と口演活動に取り組んだ阿南哲朗、旧戸畑市生まれで数々の文学賞を受賞している神沢利子など優れた文学者を輩出しています。創刊60年の児童文学誌『小さい旗』からは世良絹子や柏木恵美子など多くの書き手が育ち、現在も子どものための作品作りの活動が続いています。

そうした活動が今後も引き継がれ、本市の優れた児童文学作品が、多くの子どもや市民に親しまれるよう、その顕彰の方法も含め、調査・研究を進めていきます。

【推進していく主な取組み】

- ① 児童文学についての顕彰方法を含めた調査・研究【戦略1】

③ 偉人・先人の顕彰

本市は火野葦平、松本清張、岩下俊作、劉寒吉などの著名な作家を多数輩出しています。そして、女性俳句の草分けである杉田久女などが活躍した舞台でもあります。

このように本市ゆかりの文化人のPR・顕彰を進め、「文学の街」を発信します。また、市内に点在する多くの文学的素材や、さまざまな文化資源・文化的取組みを有機的につなげることで、にぎわいの創出にもつなげていきます。

【推進していく主な取組み】

- ① 高校生・大学生と連携した文学の街・北九州の発信【戦略2】
- ② 文学館・清張記念館などの文化施設や文学に関する史跡・催しをつなげる仕組みづくり【戦略3】
- 杉田久女の顕彰【戦略1】
- 全国俳句大会の開催【戦略1】
- 北九州ゆかりの作家展の開催【戦略1】
- 文学館文庫の発刊【戦略4】

(3) 「合唱の街」など音楽文化の振興

音楽は身近な文化芸術の一つであり、日々、誰もが自分の好きなジャンルの音楽に触れています。また、本市では、多くの市民が、合唱、吹奏楽、管弦楽、ロック、ジャズ、邦楽など、さまざまな演奏活動を行っています。中学・高校の合唱部・吹奏楽部の活動も活発で、全国コンクールに出場して高い成績を収めている学校もあります。

昭和63年に始まった「北九州国際音楽祭」は、本市にクラシックコンサートの文化を定着させつつあります。今後とも、世界的に評価されるアーティストを招き、地元のアーティストとともにその魅力を充実していきます。

また、音楽専用ホール「響ホール」では、その音響の良さを活かして、ハイレベルのコンサートが数多く開催されています。

西日本最大級のパイプオルガンを有する北九州ソレイユホールでは、クラシックからポップス・演歌まで、さまざまなコンサートが開催されています。

音楽文化のさらなる振興に向けて、引き続き積極的にコンサートの開催や市民活動



グランソレイユ合唱団

の支援に努めていきます。

さらに、本市の特色ある取組み、魅力を広く市民に発信していくため、新たに、「合唱の街づくり」を進めていきます。合唱は、とても手軽な活動であり、心と身体を元気にし、仲間づくり、生きがいがづくりにもつながっていきます。「合唱」という分野を通して、さらに元気な人づくり、まちづくりを行っていきます。

【推進していく主な取組み】

- ① 多くの市民が、合唱する側、聞いて楽しむ側として参加する「合唱の街・北九州」の推進【戦略1】
- ① ピアノや吹奏楽等の演奏からしばらく遠ざかっている働く世代が、再度、楽器に触れるようなしなかけづくり【戦略1】
- 社会人ブラスバンド、おやじバンド等の活動の場の提供【戦略1】
- 北九州国際音楽祭、響ホール事業など、ハイレベルのコンサートの実施【戦略4】
- 北九州ソレイユホールでの音楽イベント誘致の支援【戦略4】

(4) 漫画や「映画の街」の施策の実施・支援

① 漫画文化の情報発信

漫画・アニメや映画をはじめとするメディア芸術は、クールジャパン*1の一つとして、世界的に注目を集めています。



映画撮影ロケの様子

本市は、松本零士やわたせせいぞうなど日本を代表する漫画家のゆかりの地であり、その強みを生かし、漫画文化の拠点「北九州市漫画ミュージアム」を平成24年に開館しました。この施設は、本市ゆかりの漫画家の作品展示や5万冊の蔵書があり、子どもから大人まで幅広い世代が集う場として、まちの個性やにぎわいづくりの一端を担っています。また、漫画文化は国際的な広がりと可能性を秘めています。漫画の持つ魅力・ポテンシャルを、国内外にも広く発信するよう努めるとともに、漫画等表彰制度の創設を検討します。

【推進していく主な取組み】

- ① 漫画等表彰制度の創設を検討【戦略1】
- ① 漫画等の国内外に向けた情報発信【戦略4】

用語
解説

*1 クールジャパン／日本の文化面でのソフト領域が国際的に評価されている現象や、それらのコンテンツそのもの。

② 「映画の街」の取組み

「東京ドラマアウォード2014特別賞」*1や「福岡県文化賞・社会部門」*2を受賞するなど全国的に高く評価されている北九州フィルム・コミッションは、数多くのテレビドラマや、映画撮影のロケ誘致に成功しています。

これらの活動により、都市イメージの向上や撮影隊がもたらす経済的な波及効果だけでなく、国内外からの観光客も見込めます。さらに、「映画の街・北九州」という新しい都市ブランドの確立にもつながっています。

その「映画の街・北九州」の情報発信の拠点として、約3万点の貴重な映画・芸能関係の資料を公開展示している松永文庫の運営にも引き続き取り組むとともに、地元の映画館などと連携した企画展を開催するなど、地域のにぎわいづくりにも努めていきます。

【推進していく主な取組み】

- 映画やテレビドラマのロケを積極的に誘致し、北九州のイメージアップやまちのにぎわいづくりに寄与【戦略3】
- 収蔵資料を活用した魅力的な企画展示やイベントを行い、映画文化の振興を図る【戦略3】
- 海外（主に東アジア）における映画、TVドラマ誘致の強化【戦略4】

（5）自然史・歴史施策の充実

自然史・歴史博物館では、「いのちのたび」をコンセプトに、46億年前の地球誕生から現代に至るまでのいのちの歩みを壮大なスケールで展示解説しているほか、幅広いテーマで開催する特別展・企画展や、質の高い教育普及活動などを通じて、年間を通して多くの来館者で賑わっています。

市内外からの来館者や修学旅行生などのさらなる集客に努め、地域のにぎわいと学びの拠点施設を目指していきます。

また、「時と風の博物館」*3は、市民が北九州市の誇るべき魅力や個性を発掘・再発見し Web 上で発信する取組みです。本市のすべてを大きな屋外博物館に見立て、ありふれた日常の中で、見過ごされがちだった風景や場面の写真をエピソードとともに、地域資源として Web 上に所蔵し、「美しいまち・北九州」を効果的に情報発信していきます。

用語解説

- *1 東京ドラマアウォード／“日本人として海外に見せたい”と思う魅力あるドラマに与えられる賞。
- *2 福岡県文化賞／福岡県の文化の向上・発展を図るため、文化振興に顕著な功績のあった個人や団体に贈られる賞。
- *3 「時と風の博物館」／平成24年2月に開設。市内外から本市の魅力ある地域資源情報を広く公募し、地域資源にかかるエピソードとともにミュージアムの展示品として登録する専用ウェブサイト。市民自らがエピソードとともに展示品（地域資源）を紹介し、参加者相互の情報交換が行われることによって展示品の価値を向上させている。平成27年12月末現在、約2,700点の展示品が登録されている。

- 博物館を第二の学校(教室)として価値ある学習活動を行い、子どもたちの来館機会を創出【戦略2】
- 出前事業やゲストティーチャー派遣などのアウトリーチ等を通じた教育普及活動の充実【戦略2】

(6) 美術文化の振興

美術館では、本館と併設されたアネックス、リバーウォーク5階にある分館、コムシティ3階の黒崎市民ギャラリーの3か所で各種展覧会を開催しています。収蔵品には、江戸から明治にかけての浮世絵、ルノワール、ドガ、モネなどの印象派から現代までにおよぶ絵画、立体作品、西日本を中心とする地域ゆかりの作家作品を体系的に収集し、名品が数多くあります。

市民の財産である美術品等の貴重なコレクションを将来の世代に確実に伝えるだけでなく、その活用を図りながら、アウトリーチ事業*1の開催や他分野と連携し、子どもから高齢者まで幅広い多くの市民が集い、楽しむ場となることを目指します。

現代美術センター・CCA 北九州では、現代美術の研究・学習機関として活動するだけでなく、招へいアーティストによる新作展覧会を企画するなど、市民がアートやデザインを楽しむ機会を提供しています。平成27年9月、若松区の学術研究都市に移転したことを契機に、大学・企業との連携を深め、多様な視点からデザイン等の研究を進めます。また、今後は美術館との連携も検討していきます。

【推進していく主な取組み】

- ① 美術館のリニューアル【戦略1】
- 話題性や集客力の高い、魅力ある企画展の開催(再掲)【戦略3】
- 美術館ボランティアとの連携【戦略4】

用語解説

*1 アウトリーチノももとは「手をのばすこと」という意味。「(公的機関や奉仕団体の)出張サービス」という意味でも用いられる。劇場・音楽堂におけるアウトリーチとは、普及啓発活動を推進する観点から、アーティストを学校や福祉施設などに派遣し、ミニ・コンサートや参加体験型事業、レクチャーなどを行う館外活動のことをいう。これまで文化芸術に接していない人々や無関心層に文化芸術の楽しさを提供し、潜在的な鑑賞者や新しい鑑賞者の掘り起こしなどを目的に行われる。

*アートマネジメントの基礎用語ハンドブック(公益社団法人 全国公立文化施設協会)より抜粋。美術館・博物館等においても同様に、近年盛んに行われている。

なお、関係者向けに行う体験型ワークショップや、学校の課外活動などをホールに受け入れる仕組みのことをインリーチと呼ぶ。

施策4 文化芸術の担い手の育成

基本的な考え方

将来の文化芸術を担う子どもの豊かな心や感性・創造性を育むため、子どもたちが身近に伝統文化や文化芸術にふれる機会を充実させます。

また、これからの地域文化の振興を担う人材(市民、劇場、文化施設等のスタッフ、教育者、地域のアーティスト等)の育成や人的ネットワークの形成に取り組みます。

さらに、アウトリーチなどの実施に当たっては、教育委員会等と情報を共有し、協議・調整する必要があります。そのため「北九州市総合教育会議」などを通じて、教育委員会等と連携をさらに強化して取り組みます。



子ども文化ふれあいフェスタ

今後の取組み方針

(1) 人材育成に係る事業の実施

子どもたちや若者が、学校や地域等において、文化芸術に触れ、体験する環境を充実させます。音楽や演劇、ダンス等のアーティストとの出会いにより、子どもたちが表現力や想像力コミュニケーション能力を養い、創造性や個性を伸ばす手助けとなる機会を提供します(アウトリーチ等)。



北九州芸術劇場による
アウトリーチ(舞踏)

また、アウトリーチ等の実施にあたっては、コーディネートする側とアーティスト、学校等が十分にコミュニケーションを取り、状況を踏まえてプログラムを検討する必要があります。それぞれの出会いを大切に、丁寧な実施を行うことで、より充実した活動が可能となります。今後は、美術や文学などジャンルを広げることや、シニア層を取り込むなど、その対象を広げていきます。

さらに、インリーチとしてホール等で行う体験型ワークショップ*1や、子どもたちを対象とした鑑賞プログラムも充実し、臨場感あふれる舞台体験等の機会を提供することで、アーティストらの雰囲気を感じてもらえるような取組みを推進します。そして、他都市での先進事例を参考にしながら、子どもたちが文化施設で優れた文化芸術に触れる機会の創出に努めます。

用語解説

*1 ワークショップ／もともとは「仕事場」「工房」「作業場」など、共同で何かをつくる場所を意味していたが、近年、問題解決、トレーニング、学び、創作の手法として活用されている。通常は、ファシリテーター(司会進行役)が、参加者の自発性を引き出す環境を整え、参加者全員が体験することで進められる。アート分野では、芸術の創作過程を体験し、その場に集まった参加者が互いに刺激し合い、その相互作用の中で学んだり、創造体験することとされる。

*アートマネジメントの基礎用語ハンドブック(公益社団法人 全国公立文化施設協会)より抜粋。

これらの方針を踏まえ各施設や団体など市全体、地域ぐるみで人材育成を図っていくような仕組みづくりを進めていきます。

【推進していく主な取組み】

- 若者や子どもたちを主な対象とした優れた芸術との“出会い”の場、機会（アウトリーチ等）を創造【戦略2】
- 子どもたちが身近に伝統文化や文化芸術にふれる機会を充実するための教育委員会等とのさらなる連携【戦略2】
- 中学・高校等の部活動等の支援の検討【戦略2】
- インリーチとしてホール等で行う体験型ワークショップや、子どもたちを対象とした鑑賞プログラムの充実【戦略2】
- アウトリーチ、ワークショップ情報の一元化 【戦略4】

（2）文化芸術の専門家を目指す人材の育成

文化芸術の担い手の育成は、作り手だけでなく、つなぎ手あるいはコーディネーターも文化芸術の専門家を目指す人材の育成に含まれます。それらを育成する上で必要となる、長期研修などの育成プログラムの研究にも取り組んでいきます。また、高校・大学や専門学校をつなぐ取組みなどの検討を進めていきます。

さらに、美術館や自然史・歴史博物館、文学館等における学芸員等の各種専門職員を養成・確保するとともに、資質向上のための研修、交流を充実していきます。

また、新しい文化芸術を創造するうえで重要なのは、各文化施設がそれぞれの分野の専門家を育成する仕組みづくりや、本市で育った人材が地元で活動できる場づくり、逆に優秀な人材を本市に取り込む仕組みづくりです。これらの検討を進め、文化芸術の専門家を目指す人材の育成に努めます。



高校生のための演劇塾

【推進していく主な取組み】

- ⑦ 企画・立案・調整や創作活動を支える専門人材（プロデューサー・コーディネーター）の地元での育成・活用【戦略2】
- アウトリーチ事業に係るコーディネーターの育成【戦略2】
- 舞台芸術分野の専門家を招いて、地域文化の将来を担う人材を育成【戦略2】
- 劇場の有する専門的なノウハウを地域の高校の教育カリキュラムの中で充実・活用【戦略2】
- 各文化施設の学芸員を集めた研修・交流会の実施【戦略2】

(3) ボランティアの育成

文化施設がボランティア制度を導入することは、施設の取組みがより多彩で魅力的になるだけでなく、ボランティア自身の文化芸術への興味や関心の向上につながります。さらには文化芸術活動のすそ野を広げる効果が期待できます。



本市では、美術館がわが国初の美術ボランティアを導入し、自然史・歴史博物館シーダー
そのボランティアはコレクション展の解説や美術資料の整理・イベント補助など美術館運営に参加しています。自然史・歴史博物館においても、「博物館シーダー」として、展示物の案内や来館者の学びのサポートなどで活躍しています。

このように、各文化施設において、ボランティア制度の充実を図るとともに、ボランティア育成のための支援を実施していきます。

【推進していく主な取組み】

- 各文化施設のボランティアの連携【戦略2】
- 読書ボランティア、図書館ボランティアの育成・活用【戦略2】
- 美術ボランティアの育成・活用【戦略2】
- 自然史・歴史博物館ボランティアの育成・活用【戦略2】
- 各文化施設のボランティア養成研修【戦略2】

施策5 地域における伝統文化の発掘・継承

基本的な考え方

本市には、戸畑祇園大山笠行事、小倉祇園太鼓、黒崎祇園行事、沼楽、大積神楽、前田の盆踊など、固有の伝統文化が受け継がれています。

人々の営みの中から生まれ、長い年月をかけて受け継がれてきた地域に根ざした固有の祭り、伝統芸能などの伝統文化を発掘し、次代に継承します。



戸畑祇園大山笠（ウェルとばた内）

今後の取組み方針

（１）「戸畑祇園大山笠行事」のユネスコ無形文化遺産への登録

ユネスコ無形文化遺産は、「無形文化遺産の保護に関する条約」に基づき、芸能、社会的慣習、儀式及び祭礼行事などの無形文化遺産を、その保護を目的にユネスコが登録するものです。文化庁は平成27年、「戸畑祇園大山笠行事」を含む33件の国定重要無形民俗文化財を一つのグループとして、ユネスコに申請しています。

今後は、国や地元の関係団体、他自治体などと情報共有を図りながら、ユネスコ無形文化遺産の登録に向けて、関係者と連携・協力していきます。

【推進していく主な取組み】

- ① 国や地元の関係団体、他自治体などと連携した「ユネスコ無形文化遺産」登録の推進、PR【戦略4】

（２）伝統文化の保存・継承

平成28年1月に開催された国の文化審議会で、小倉祇園太鼓を「記録作成等の措置を構すべき無形の民俗文化財」に選択し、横代神楽を含む豊前神楽を「重要無形文化財」に指定するよう答申が出されるなど、本市の貴重な伝統文化の価値が認められました。

今後、小倉祇園太鼓については、歴史的変遷や太鼓芸能について研究を進めます。横代神楽は旧豊前国地域の神楽とともに、関係者と連携しながら、保存・継承に取り組む支援をしていきます。

このように、地域に根付く祭りや芸能、工芸などの伝統文化は、それぞれが個性を持った地域文化の土台ともいべきものであり「市民の宝」です。保存すべき伝統文化について、情報把握に努めるとともに、文化財への指定や記録作成など、必要な措置を講じていきます。また、伝統文化を継承するには、その文化を守り伝える人材の育成が課題です。そのために、保存団体の活動や継承者の有無を把握するとともに、伝統的な技や芸能が次世代にしっかり受け継がれていくよう支援していきます。

【推進していく主な取組み】

- ⑨ 小倉祇園太鼓の調査等による記録作成【戦略1】
- 能楽、日本舞踊等、伝統的な芸能の保存・継承【戦略1】
- 茶道、華道など生活文化の保存・継承【戦略1】
- 各地に分散する資料を調査し、貴重な文化資源として活用【戦略1】
- 伝統文化保存、継承団体等への活動支援【戦略2】
- 伝統文化に関する市民への情報発信の充実【戦略4】

（3）伝統文化の公開

市民が伝統文化の魅力に触れることで、その文化に対する市民の意識が高まり、伝統文化を支え、後世に伝えようと努力する人々の励みにもなります。祭りなどの伝統芸能は、地域住民のきずなを深めるとともに、文化的で魅力ある暮らしを創出し、市民の誇りとなります。加えて観光資源としても、まちづくりに大きく寄与します。

伝統芸能や伝統工芸の公開を含め、市民が伝統文化に触れる機会を充実するよう取り組んでいきます。また、市民の誇りとなるような貴重な伝統文化について、広報誌やホームページなどを通じて情報提供を行うなど、市民に広く周知することで、シビックプライドの醸成につなげていきます。

【推進していく主な取組み】

- 伝統文化の公開等に関する情報発信の充実【戦略4】

施策6 近代化遺産など文化財の保存・継承

基本的な考え方

文化財は、我が国の歴史と風土の中で培われてきた貴重な財産であり、文化の向上発展の基礎をなすものであって、その保護、保存、活用を適切に行うために、きめ細かな施策が必要です。

このため、郷土の歴史と文化に対する理解を深め、郷土愛を育むために地域文化を保存・継承していくことを目的に事業を実施していきます。

また、ユネスコ世界文化遺産に登録された「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」をはじめとする近代化産業遺産などの有形の文化財を市民共通の財産として、市民、企業、行政などが連携して保存・継承します。



埋蔵文化財出前事業

今後の取組み方針

(1) ユネスコ世界文化遺産

平成27年7月に、幕末から明治時代にかけて日本の近代化に貢献した産業遺産群、「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」の、ユネスコ世界文化遺産への登録が決定しました。この遺産群は、北九州市を含む8県11市にまたがる23資産からなり、本市では、官営八幡製鐵所関連施設が構成資産に含まれています。

ものづくりのまちとして発展してきた本市にとっては、非常に誇らしいことであり、「世界遺産のある街」という新たなフラッグシップを得ることができました。そこで、この世界遺産を市民の誇りとして積極的にPRするとともに、まちづくりやにぎわいの創出にも生かしていく取組みを進めていきます。

【推進していく主な取組み】

- 新たに世界遺産となった「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」の積極的な広報展開【戦略4】

(2) 文化財の保護、適切な管理

これまで所有者や地域で大切に受け継がれてきた文化財を保護するため、必要な調査を実施するとともに、学術的に価値が高いものについては、市の文化財に指定します。特に重要なものについては、国や県に文化財への指定を働きかけていきます。

文化財を将来にわたり良好な状態で保存していくために、所有者が正しい保存の知識を持つよう助言などを行うとともに、必要に応じて行政が技術的・経済的な支援を行います。そして、文化財を「市民の宝」として、適切に保存・管理します。

【推進していく主な取組み】

- 文化財の指定及び登録の推進【戦略1】
- 指定文化財の保存修理への支援【戦略1】

(3) 文化財の積極的な情報発信・活用

「市民の宝」である文化財を確実に将来へ伝えていくためには、市民が文化財の価値を正しく認識し、大切に作る意識を高め、シビックプライドの醸成につなげていくことが必要です。

そのために、その魅力を広く紹介・公開し、実物に触れる機会を設けるなど、分かりやすい形で情報発信していきます。例えば、自然史・歴史博物館や埋蔵文化財センター等での展示や発掘調査の現地説明会、文化財を活用した学校での体験学習などを通して、質の高い文化芸術に触れる機会をできるだけ提供するよう努めていきます。また、広報誌や専門書の刊行など印刷物のほか、インターネット等での文化財の紹介、地域のイベントを活用したPR、講演会の開催など、積極的な情報発信に努めます。

さらに、東田第一高炉跡や森鷗外旧居などの文化財公開施設を活用した、にぎわいの創出等についても検討します。

【推進していく主な取組み】

- 日本遺産*1の登録に向けた取組みの推進【戦略1】
- 現地説明会や学校での体験学習などの開催【戦略2】
- 森鷗外旧居などの文化財公開施設を活用したにぎわいの創出【戦略3】
- 文化財に関する情報発信の充実【戦略4】

用語解説

*1 日本遺産／地域の歴史的魅力や特色を通じて、文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産」として文化庁が認定する制度(平成27年度創設)。文化庁では、東京オリンピック開催の2020年までに100件程度の認定を予定している。

施策7 文化芸術によるまちづくり

基本的な考え方

本市では、日常においても、稽古事や趣味などをおとして、文化芸術活動が盛んに行われています。市民がゆとりと潤いの実感できる心豊かな生活を送り、まちのにぎわいを創出する上で文化芸術の果たすべき役割は、一層高まっていくと思われます。

そこで本市は、文化芸術を担う市民やアーティスト、クリエイターが集まる環境の整備を進め、さらなる文化芸術の振興に努めます。加えて、文化芸術の持つ力を地域経済、教育、福祉などに生かし、創造的なまちづくりを進めていきます。



ポップカルチャーフェスティバル

今後の取組み方針

(1) まちのにぎわいづくり

地域の文化資源を生かしたアーティストが集うまちのにぎわいづくりを進めていきます。

具体的には、フィルム・コミッション活動を積極的に進め、海外作品の誘致にも取り組みます。「映画の街・北九州」という新たな都市ブランドを確立し、本市の魅力的な都市景観や豊かな自然を世界に向けて発信し、知名度アップやインバウンドの増加につなげていきます。また、「北九州国際音楽祭」においては、世界的に評価されるアーティストを招き地元アーティストとともに、その魅力を発信します。また、都心部における若い世代を中心にしたにぎわいを演出するため、メディア芸術や音楽、ダンスなどのポップカルチャー*1(漫画・アニメなど)を中心とした文化芸術を楽しめるよう振興していきます。さらに分野を超え自由な交流から生まれる新しい芸術と、社会がいかに関わられるかをテーマにした「門司港『揺らぎ』の芸術祭」など、地元で活動するアーティストや市民が協働できる事業に取り組み、北九州ブランドとしての文化芸術を創出、発信していきます。

【推進していく主な取組み】

- 海外（主に東アジア）における映画、TVドラマ誘致の強化（再掲）【戦略4】
- 漫画ミュージアムの集客と合わせた小倉駅周辺のにぎわいづくり【戦略3】
- 門司港「揺らぎ」の芸術祭の開催【戦略3】
- ポップカルチャーを活用したフェスティバルの開催【戦略3】

用語
解説

*1 ポップカルチャー／漫画・アニメ・ゲーム・映画などの大衆向け文化のこと。

(2) 2020年東京大会に向けた文化プログラムの検討

2020年オリンピック・パラリンピック東京大会に合わせて、アスリートと同規模のクリエイターが世界中から日本に集い、大会期間中にピークを迎えます。また、多くの外国人観光客が来日することから、日本の文化を積極的にPRするチャンスです。アーティスト、文化芸術団体、NPO、企業、行政が行うイベントや各文化施設をつないだ連携イベントなどあらゆる人々が参画し、その価値を国内外に発信する取組みが考えられます。この文化プログラムの実施については、現在、国において検討が進んでおり、情報収集に努めていきます。

2020年東京大会の文化プログラムは、本市の文化芸術施策が実を結ぶ中間地点であることから、それ以降も多様な文化芸術活動を継承、発展させることを考えながら、取組みの検討を進めていきます。

また、国内外から来訪者を迎え入れ、本市の歴史、文化に触れ、味わっていただくために、北九州ならではのおもてなしを実践します。小倉城周辺の魅力を向上し、和の文化の発信、北九州の伝統の継承、交流など、来訪者が、また来てみたいと思うような動機づくりを行っていきます。

【推進していく主な取組み】

⑨ 漫画等の国内外に向けた情報発信(再掲)【戦略4】

- 来日外国人との交流や相互理解の促進につながる取組み 【戦略3】
- 小倉城周辺の魅力向上策の推進【戦略3】
- 文化施設等をユニークベニュー^{*1}として活用【戦略3】

(3) 創造都市への取組み

「創造都市」とは、欧州において、基幹産業の重工業が衰退し疲弊していたまちで、文化を都市計画の柱に据え、積極的に進めたところ、その後まちに新たな魅力が生まれ、都市の再生が促されたという実例に基づく考え方です。

北九州市が目指す創造都市は、地域固有の文化や資源を活かした創造的な活動が活発に行われ、その活動が新たな付加価値の創出や、地域社会の活性化との原動力となり、まちのにぎわいづくりにつながっている都市です。また、すべての人々が生まれながらに持っている創造性を存分に伸ばし、いきいきと生きることができるまちです。

例えば、文学をキーワードに、森鷗外や松本清張など小倉都心部に点在する文化資源を有機的につなぎ、まちづくりに生かす取組みもその一例です。

用語
解説

*1 ユニークベニュー／歴史的建造物、文化施設や公的空間等で、会議・レセプション等の催事やイベントを開催することで特別感や地域特性を演出できる会場。

この文化振興計画の着実な推進により、活力と魅力溢れる街を目指し、未来に大きく発信していきます。

創造都市には、文化芸術の多様な表現に代表される創造性を活かし、誰もが生きがいや潤いを感じる活力のあるまちをつくる力もあります。この点に関連して、文化芸術における社会包摂*1の視点も大切です。もともと、文化芸術の世界には、人との違いや個性を認め合う土壌があり、これは他者への理解という多様性に通じます。文化芸術は、教育、福祉、観光、商工等幅広い行政分野に社会参加の機会を開くだけでなく、地域全体の創造性を活性化していく力も持ち合わせています。

引き続き、本市で社会包摂を考えるとときに何をすべきか検討していきます。

【推進していく主な取組み】

- ⑨ 文学館・清張記念館などの文化施設や文学に関する史跡・催しをつなげる仕組みづくり（再掲）【戦略3】
- 福祉施設と文化施設との連携によるワークショップや創作活動の推進【戦略2】
- 障害者芸術祭（障害者アート）を通じた共生社会の推進【戦略3】
- 森鷗外旧居などの文化財公開施設を活用したにぎわいの創出(再掲)【戦略3】

（４）文化芸術で推進するこの街の方向性

文化芸術活動を通じて得られる楽しさや感動を、私たちは皆幾度となく経験しています。これら人生の喜びや生きる糧をもたらしてくれる文化芸術は、心豊かな市民生活、そして活力ある社会を築く基盤となるものです。

地域に根ざした文化芸術をさらに発展させるため、市の文化芸術を取り巻く環境や、創造する側、鑑賞する側、支援する側などを俯瞰的に見ながら、専門的な助言をするしくみとして、（仮称）アーツディレクターを中心とした協議の場を設けることを検討します。そこでは、文化事業のフォローアップ、進捗状況の確認・評価、情報発信におけるコーディネート、また将来の文化芸術で推進するこの街の方向性について、市へ助言等を行ってもらうことを想定しています。

【推進していく主な取組み】

- ⑨ （仮称）アーツディレクターを中心とした協議の場づくりの検討【戦略2】

用語解説

*1 社会包摂／千差万別の全てのコミュニティと市民一人ひとりが、全ての面で平等にアクセスできる機会・システムをもつ社会をつくっていくこと。共生社会の実現、地域社会の絆の強化、社会参加の機会の拡充が主な目的である。*アートマネジメントの基礎用語ハンドブック(公益社団法人 全国公立文化施設協会)より抜粋。

【第3部】

主な拠点施設における取組み

1 文学の拠点～文学館、松本清張記念館、図書館

■文学館

(1) 施設目的と取組みの方向性

文学館は、北九州市ゆかりの文学者と文芸活動に関する資料を収集・保存・調査・研究し、公開することで、文学の啓発・普及に寄与することを目的とした施設です。

館内では、森鷗外、杉田久女、林芙美子、火野葦平、岩下俊作、劉寒吉など北九州ゆかりの文学者の原稿や著作などの資料展示のほか、パネルや映像を通して、北九州に根付く文芸土壤に触れることができます。

また文学講座や俳句、小説の入門講座を開講して文学活動の普及に努めています。他に子ども対象の俳句講座や絵本作りなどのワークショップも行っています。さらにこれらの事業に加え、文学賞やコンクールの実施、文学館文庫の発行など、本市の豊かな文学的土壤を全国に発信します。



(2) 推進していく主な取組み

① 子ども向けの展示の充実

文学館の展示物を小中学生が興味を持って鑑賞し、学べる展示にむけ検討します。

② 開館10周年・15周年記念事業の検討

文学館が開館10年を迎える時期に記念事業等を企画し、市民に文学館のアピールを行うとともに、展示リニューアルを検討するなど文学に触れる機会の充実を図ります。

○ 各文学賞の実施

交通の要衝、重工業都市として日本の近代を牽引してきたこの街は、人、もの、情報が重層的に行き交い、独特の文学風土が醸成されました。そこからは多くの文学者が輩出、現在でも数多くの作家が多彩なジャンルで活躍しています。こうした地域性の全国発信と新しい才能の出現を願って、様々な文学賞を実施します。

「林芙美子文学賞」は、これから文壇デビューを目指す新たな文学の才能を発掘することを目的とします。「北九州市子どもノンフィクション文学賞」は、次代を担う子どもたちが事実を客観的に見つめ、思考し、言葉で表現する力を身につけることを目的とします。「あなたにあいたくて生まれてきた詩コンクール」は、子どもたちの豊かな想像力や表現力を伸ばし、詩に対する理解と関心を高めることを目的とします。

○文学館文庫出版事業

北九州市ゆかりの作家の業績を埋没させることなく後世に伝えるため、絶版となった作品の復刻などを行います。年間3冊程度をめどに発行していきます。

○地元映画館との連携

地元映画館と連携し、本市出身やゆかりの作家の原作映画を上映するなど、映像の視点から文学に触れる機会をつくれます。

○現代作家の研究等

本市の豊かな文芸風土は現在も引き継がれ、高橋睦郎、村田喜代子、平出隆、平野啓一郎、葉室麟など、多彩な分野で北九州ゆかりの文学者が活躍しています。現役作家に関する文芸資料の収集、保存、調査、研究にも努め、広く情報発信を行います。

○文学館の研究センターとしての機能の拡充

本市ゆかりの貴重な文学資料の劣化や散逸が懸念されます。文学館では、森鷗外旧居、火野葦平資料館、火野葦平旧居(河伯洞)、林芙美子記念室、宗左近記念室等作家関連施設とさらに連携を強化し、資料の適切な保管管理体制を構築し、調査・研究に訪れる方々のために、研究センターとしての機能を拡充させます。

■ 松本清張記念館

(1) 施設目的と取組みの方向性

松本清張記念館は、松本清張に関する貴重な資料の収集・保存・調査・研究や展示、市民の文芸活動を支援することで、文学の啓発・普及に寄与することを目的とした施設です。

本市の文学の拠点の一つとして、松本清張に関わる継続的な調査・研究に加え、その魅力を紹介する企画展や多彩な関連イベントの開催などを通じて、市民の文学に対する関心を高めていきます。



(2) 推進していく主な取組み

○ 節目の時期を捉えた情報発信の強化

開館20周年を迎える平成30年、松本清張生誕110年など節目の時期を捉えて、記念事業等を企画し、松本清張記念館のPRを行うとともに、清張文学に触れる機会の充実を図ります。

○ 多様な切り口からの企画展や講演会の開催

歴史小説・現代小説という多様な切り口からの企画展を開催します。

○ 研究事業（研究奨励事業・研究誌発行）の実施

松本清張に関する「研究センター」機能を果たすため、調査研究・資料収集・研究奨励事業、研究誌発行事業を行います。

○ 中高生読書感想文コンクールの実施

中学生や高校生が、松本清張の「人と作品」を知るきっかけとなるよう、読書感想文コンクールを行います。

■ 図書館

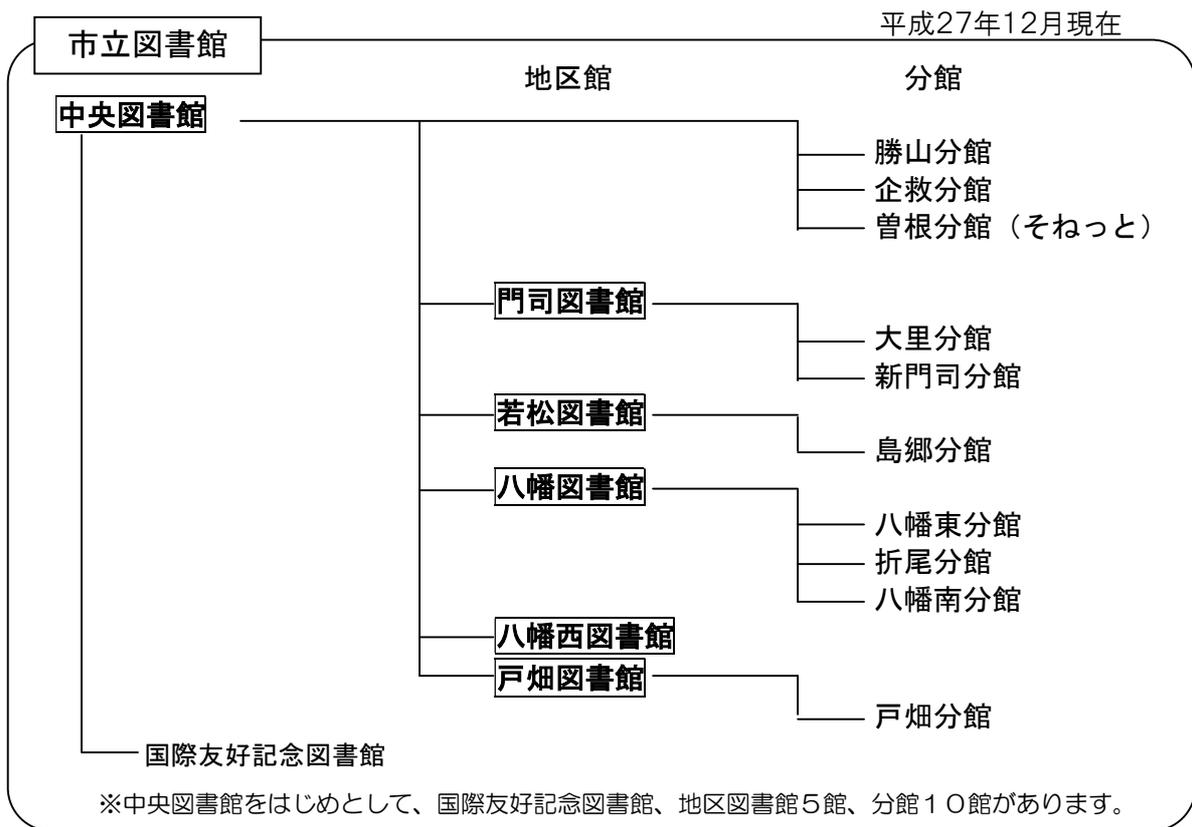
(1) 施設目的と取組みの方向性

図書館は、市民に対して幅広い知識や情報を提供するとともに、地域における文学・活字文化の振興に資することを目的とした施設です。



北九州市立図書館協議会の答申で示された「市民の学びに役立つ図書館」など5つの視点を踏まえながら、中央図書館を中心に市内の地区図書館と分館が一体となって有機的な連携を図り、サービスの充実に取り組んでいます。また、同協議会に対して、平成27年3月に「これからの図書館サービスのあり方について」を諮問しており、今後は、新しい答申を図書館行政の基本的な指針として位置付け、事業を推進していくこととなります。

あわせて、八幡図書館の移転整備、小倉南図書館や子ども図書館の整備を行い、図書館としての機能やサービスのさらなる充実に努めていきます。



※ 今後、小倉南図書館や子ども図書館を整備しますので、上記の市立図書館の構成が変更になる予定です。

□ 地域の特性等を生かした図書館づくり

市立図書館では、地域の歴史や特色を生かした郷土資料を収集しており、郷土史や地元ゆかりの作家を紹介しています。

八幡西図書館には、長崎街道黒崎宿の桜屋の一部を復元した畳の読書コーナーを設置しており、戸畑図書館には、地元の詩人・宗左近の業績を紹介する記念室を併設しています。今後、移転改修する八幡図書館には、地元の児童文学者・みずかみかずよのコーナーを設け、新たに整備する小倉南図書館には、郷土資料等を展示していく予定です。

地域文化の保存・継承のため、今後も、郷土に関連した資料等の保存や展示内容のさらなる充実に努めるとともに、地域の特性等を生かした図書館づくりを行っていきます。

(2) 推進していく主な取組み

○図書館ネットワーク（連携）の構築

学校図書館への支援や、学校貸出図書セットの充実、子ども司書の養成など、学校等との連携を推進します。

また、ひまわり文庫や大学図書館など、市立図書館以外の場所での読書環境の充実に取り組みます。

○地域や市民の課題を解決できる図書館

市民の様々な課題解決を支援するため、相談内容のデータベース化やレファレンス機能(相談、情報提供機能)などの強化を図ります。

○子どもの読書活動を推進する図書館

家読(うちどく)の推進や読み聞かせ会の実施などの読書活動を通じた子育て支援や、調べ学習図書の充実などの学習活動への支援を行い、子どもに親しまれ、積極的に利用される図書館づくりを推進します。また、子どもの読書活動の推進拠点となる子ども図書館を整備します。

さらに、市立図書館で文学館等をはじめとした、市内の文化施設と連携した取組みを検討します。

○誰もが使いやすく、情報や人が交流する図書館

活字情報のみならず、電子情報の提供など高度な情報提供の実現を図ります。また、バリアフリー化やインターネット予約など、利用者の視点に立ったサービスの充実を図り、誰もが使いやすい図書館づくりを推進します。

○市民参画型図書館

読書ボランティア(読み聞かせなど)や図書館ボランティア(書架整理など)の育成・活用を推進し、市民のボランティア活動への参画支援を図ります。

※ 新たな答申(「これからの図書館サービスのあり方について」)に基づき、事業を推進します。

2 音楽の拠点～響ホール、北九州ソレイユホール

■ 響ホール

(1) 施設目的と取組みの方向性

響ホールは、残響時間約1.8秒(満席時)という究極の音響設計によるクラシックを中心とした音楽ホールで、音楽を愛する人たちの殿堂です。



建築材にはレンガ、ガラスを取り入れ、客席がステージを取り囲むシューボックス形式というこのホールは、チェンバロとハープも有しており、全国に誇れる本市の優れた文化財産です。

今後も、このホールの特性を活かすべく、著名な演奏家によるコンサートなど質の高い音楽鑑賞の機会や、地元音楽家・団体の発表の場を積極的に提供していきます。また、クラシック音楽の拠点施設として、民間や大学とも連携しながら、音楽を通じた情報発信、にぎわいづくり、人材育成などに努めます。

その他、響ホールと北九州芸術劇場をはじめ、他の文化施設等とも連携することで、異なるジャンルのアーティストが共に創作活動を行ったり、互いの施設の持つ専門性を持ち寄り事業を実施したりすることで、地域の財産となる文化芸術を活かした創造的活動の活性化を図ります。

(2) 推進していく主な取組み

○ 響ホール室内楽フェスティバル、響シリーズ

響ホール室内合奏団と響ホールとの共同企画による響ホール室内楽フェスティバルや、ハイレベルの演奏、地元演奏家との共演などの響シリーズにより、優れた音楽芸術を提供します。

○ 音楽アウトリーチ事業の実施

国内外で活躍する音楽家や地元ゆかりの音楽家を、学校や地域に派遣してコンサートを実施することにより、音楽のすそ野を広げます。

○ 民間や大学との連携

民間企業が実施する「学生音楽コンクール」や大学の「早期教育プロジェクト」など、響ホールを会場とする優れた事業との連携を強化し、音楽家の卵の支援を行うとともに、地域から全国へ情報発信を行います。

■北九州ソレイユホール

(1) 施設目的と取組みの方向性

北九州ソレイユホール(旧九州厚生年金開館)は、昭和59年の開館以来、北部九州・山口地区の文化芸術に大きく貢献してきた文化施設です。一時、施設が売却の危機に瀕しましたが、40万人を超える署名など市民の強い存続要望を受け、北九州市が取得し、平成22年10月、「北九州ソレイユホール」としてリニューアルオープンしました。



大ホールは、2,000席を超える市内最大規模の集客力があり、特に音響の良さは高く評価され、芸能人のコンサートやオーケストラコンサート、合唱、吹奏楽コンクールなどに数多く利用されています。西日本最大級のパイプオルガンを有していることも特長です。また、芝居や講演会など多目的に利用されています。

この施設を有効活用し、音楽イベントなどを積極的に誘致し、文化芸術の振興やにぎわいづくりのための取組みを進めていきます。

(2) 推進していく主な取組み

① 公演招へい活動に向けての側面的支援

文化振興、にぎわいづくりを目的に、さらに多くの音楽イベントや、著名な芸能人のコンサートを誘致できるよう、側面的な支援を行います。

○ 市民参加型合唱祭の実施

2,000人の大ホールのステージで、国内最高レベルの声楽家の指導により、シニアと子どもたちが一緒に合唱を練習し、公演を行うという事業を実施することにより、合唱文化の振興とレベルの向上を図ります。

■美術館

(1) 施設目的と取組みの方向性

北九州市立美術館は、「丘の上の双眼鏡」の愛称で親しまれている本館と併設されたアネックス、リバーウォーク5階にある分館、コムシティ3階の黒崎市民ギャラリーの3か所で各種展覧会を開催しています。収蔵品には、江戸から明治にかけての浮世絵、ルノワール、ドガ、モネなどの印象派から現代までにおよぶ絵画、立体作品、西日本を中心とする地域ゆかりの作家作品を体系的に収集し、名品が数多くあります。



これらの貴重なコレクションを確実に将来の世代に伝えるだけでなく、その活用を図りながら、調査研究、展覧会の開催、市民参画の促進などの活動を充実していきます。また、学校教育等と連携しながら、美術鑑賞プログラムの充実やインリーチとして行う体験型のワークショップの実施、幅広い世代の参加を促すようなアウトリーチ事業も開催します。これらの取組みにより、美術館が、一層、子どもから高齢者まで幅広い多くの市民が集い、楽しむ場となることを目指します。

(2) 推進していく主な取組み

① ボランティアの育成

美術ボランティアの内容、構成を見直し、新たな基準で募集、育成します。

○ 展覧会の実施

コレクション展も含め、国内外の貴重な作品、時代や社会を反映させた作品、地域ゆかりの作品などにより、さまざまなテーマを設定して魅力ある展覧会を開催し、幅広い美術作品との出会いの場を提供します。

○ 教育普及活動の実施

美術鑑賞プログラムの充実やインリーチとして行う体験型のワークショップの実施、幅広い世代の参加を促すようなアウトリーチ事業も開催します。

○ 調査研究の充実と情報発信

美術作品の調査研究や各種美術館事業の成果に関する情報を発信します。

○ 北九州市立美術館友の会との連携強化

友の会との連携を強化し、市民に親しまれる地域密着型の美術館を目指します。

■門司港美術工芸研究所

(1) 施設目的と取組みの方向性

門司港美術工芸研究所は、美術・工芸分野に関する人材育成のため、若手の芸術家に研究と創作活動の場を提供し、優れた人材の輩出と個性豊かな文化芸術の普及及び振興に寄与することを目的に、民間や行政等が一体となって運営する施設です。今後も本市の芸術を担う人材の育成に努めるとともに、「門司港」という立地を活かした地域の魅力向上を目指し、特色ある活動を継続していきます。



(2) 推進していく主な取組み

○ 美術・工芸分野の専門家の育成

人材の育成を推進するため、創作活動の環境を整える研究員制度や市内外における展覧会等の発表の場の確保等、意欲ある若い芸術家を支援していきます。

○ 広く市民へ公開された文化・芸術講座の開催

特別講座を広く市民へ公開したり、門司港美術工芸研究所で活動する若手芸術家による市民を対象とした芸術講座を推進することで、創作に親しむ市民層の拡大に努めます。

■現代美術センター・CCA 北九州

(1) 施設目的と取組みの方向性

現代美術センター・CCA 北九州は、現代美術の研究・学習機関であり、現代美術の普及や地域の文化芸術振興に寄与することを目的としています。

市民を対象にした招へいアーティスト等による展覧会、市民美術大学美術講座、サウンドワークショップなど、世界の現代美術に触れる機会や、現代美術を身近なものと感じるきっかけを創出し、文化芸術の振興に寄与します。

平成27年9月、若松区の学術研究都市に移転したことを契機に、大学・企業との連携を深め多様な視点からデザイン等の研究を進めます。

また、今後は美術館との連携も検討していきます。



4 舞台芸術の拠点～北九州芸術劇場

■北九州芸術劇場

(1) 施設目的と取組みの方向性

北九州芸術劇場は、優れた文化芸術を市民が享受する機会の拡大、新たな文化芸術の創造及び市民文化の向上に資することを目的とした施設で、「創る」「育つ」「観る」「支える」の4つのコンセプトで事業を実施しています。これらのコンセプトに基づき、これまでも舞台芸術作品の創造と発信を積極的に行い、国内外の多彩な公演の実施により鑑賞機会を拡大するとともに、人材育成・普及啓発事業にも積極的に取り組んできました。施設利用者に対しても「提案する劇場」として、市民や地元劇団等の活動を支援しています。



今後は開館以来のこれらの取組みを着実に継続しつつ、「文化芸術による創造的な地域の活性化と都市の再生」を目指し、舞台芸術を地域の活性化やまちづくりに活かす取組みも展開していきます。

(2) 推進していく主な取組み

○舞台芸術の創造と発信

国内外で活躍する表現者との創造活動や海外の劇場との共同制作などにより、舞台芸術作品を創造し広く発信するとともに、地域資源を活用した作品創造などを今後も行っていきます。

○多彩な公演の実施による鑑賞機会の拡大

芸術性が高く集客力のある作品や、話題性の高い作品、海外作品や親子で楽しめるものなど、様々な公演をさらに幅広く実施することで、観客のすそ野拡大と都心部のにぎわいづくり、回遊性の向上などに寄与します。

○地域における人材育成や普及啓発の取組み

舞台芸術に携わる人材や地域のコーディネーター、次世代を担う若者等を育成する事業や、市民が舞台芸術を身近に感じられるような普及啓発活動を、より充実させ着実に展開していきます。

○教育、福祉、商工（企業・商店街）、観光等、多様な主体との協働による、舞台芸術を地域活性化に活かす取組み

街を形成する多様な主体と劇場とが協働し、舞台芸術を地域の活性化やまちづくりに

活かす取組みをさらに広げていきます。

○九州の拠点劇場としての取組み

舞台共同制作などを通じ、九州内、国内、海外の劇場とのネットワークを強化します。また、拠点劇場としてリーダーシップを取り、劇場の持つノウハウの発信・提供や自主制作公演のツアー実施などによる他館との連携を深めます。

○調査研究と発信

劇場の事業評価を今後も着実に実施するとともに、今後は劇場活動の社会的効果の研究・発信や、劇場と地域の伝承芸能との協働に係る研究も進めます。

■漫画ミュージアム

(1) 施設目的と取組みの方向性

漫画ミュージアムは、本市にゆかりの漫画家とその作品を中心に、さまざまな漫画の魅力を幅広い世代に伝えることで、漫画文化の振興に寄与することを目的とした施設です。



漫画文化の振興や都心のにぎわいの創出を図るため、「展示」「閲覧」「創造・育成・交流」の3つを事業の柱に据え、市内外はもとより海外からも多くの方が集まり楽しめるよう、展示内容やイベントに工夫を凝らしていきます。

(2) 推進していく主な取組み

⑨ 漫画等表彰制度の創設の検討

海外にも広く漫画の魅力を発信するため、国内外を対象に、漫画等コンテストの創設を検討します。

⑨ 漫画等の国内外に向けた情報発信

漫画等の持つ魅力・ポテンシャルを、国内外にも広く発信するよう努めます。

○ 漫画ミュージアム連携交流事業の実施

北九州市新成長戦略、都心集客アクションプランに基づき、小倉駅新幹線口地区での大規模イベントとの連携や、スタジアム完成を見据えたギラヴァンツ北九州との連携事業等を実施します。

○ 外国人観光客の増加に向けた取組み

海外からの観光客を積極的に誘致するため、常設展示エリアの外国語対応、外国語漫画の充実を図ります。

○ 魅力的な企画展の実施

人気漫画家、地元ゆかりの漫画家に焦点を当てたオリジナル企画展や巡回企画展等を実施します。

■ 松永文庫

(1) 施設目的と取組みの方向性

松永文庫は、映画・芸能関係の資料を幅広く収集・研究・保存・展示することで、市民に映画文化を紹介し、文化の振興に寄与することを目的としています。資料収集・研究に努めながら、資料を活用した魅力的な企画展や関連イベントを開催することで、利用者増に向けた取組みを進めます。

また、新しい都市ブランド「映画の街・北九州」の情報発信拠点として、映画文化に対する市民の関心を高めていきます。



(2) 推進していく主な取組み

○ 常設展及び企画展の開催

松永氏が60年にわたり収集した資料をはじめ、約3万点の貴重な映画・芸能関連の資料を公開展示します。また、テーマを決めて館内・館外企画展を開催し、県内外から訪れる多くの来館者に映画文化を紹介します。

○ 映画関連イベントの開催

展示内容と連動した映画や、北九州にゆかりのある映画等を上映します。また、上映に合わせてトークショー等を開催します。

○ フィルム・コミッションや他文化施設との連携強化

映画やドラマの撮影を誘致する北九州フィルム・コミッションの活動や他の文化施設、民間の映画館等と連携しながら、時宜を得た企画展を実施するなど、展示内容の充実に努めます。

6 自然史や歴史、地域文化の拠点～自然史・歴史博物館、埋蔵文化財センター、長崎街道木屋瀬宿記念館

■自然史・歴史博物館（いのちのたび博物館）

（１）施設目的と取組みの方向性

自然史・歴史博物館は、『いのちのたび』をコンセプトとして、歴史、考古、自然史等に関する資料の収集・保管、研究により、本市の学術文化の発展に資することを目的とした施設です。



「自然と人間の関わりを考える共生博物館」として、質の高い学習機会を提供するとともに、特別展・企画展の充実などを通じて、市内外からの来館者や修学旅行生などの集客に努め、地域の賑わいと学びの拠点施設を目指していきます。

（２）推進していく主な取組み

○ 特別展・企画展の充実

総合博物館ならではのバラエティに富んだテーマで特別展・企画展を開催し、自然史・歴史に対する関心を高めるとともに集客につなげます。

○ 博物館セカンドスクール事業の推進

博物館を第2の学校(教室)として位置づけ、子どもたちの来館機会を創出し、学習意欲を持たせる仕組みづくりを行います。

ミュージアムティーチャー(博物館勤務の教員)による博物館体験学習の実施や学習プログラムを作成します。

○ 博物館教育普及活動の充実

年間約50回に及ぶ各種普及講座の開催や、館外での出前授業などのアウトリーチ活動を通じて教育普及活動の充実を図ります。

○ ジオパーク活動の推進

市内の貴重な地質遺産を活用し、ツーリズムなどを通じての社会経済の持続的な発展や、環境問題等に関する教育・普及活動などを行う北九州ジオパーク活動を推進します。

○ ボランティアの育成

博物館利用者が学ぶための事業や体制を支援することで博物館の発展に寄与することを目的に設置された「博物館シーダー」をはじめとして、各種ボランティアを育成するため、養成講座などを実施します。

■埋蔵文化財センター

(1) 施設目的と取組みの方向性

埋蔵文化財センターは、埋蔵文化財や出土品などの考古学的資料の調査・研究等を行い、北九州市の歴史を分かりやすく解説し、学術文化の発展に寄与することを目的とした施設です。

市内における埋蔵文化財の発掘調査を実施し、調査報告書の刊行、遺跡の記録保存や、出土文化財等の保管管理を行います。また、展示や市民向けの講座などを行うことで、文化財の有効活用を進めていきます。



(2) 推進していく主な取組み

○ 考古学講座等の実施

子どもや市民を対象とした人気のある考古学講座を開催するとともに、その内容を充実します。また、発掘調査の成果を現地説明会の実施や企画展示などにより、タイムリーに市民に発信します。

■長崎街道木屋瀬宿記念館

(1) 施設目的と取組みの方向性

長崎街道木屋瀬宿記念館は、地域に伝わる歴史的資料の展示、研究等を行うとともに、市民の伝統文化の継承や文化活動を支援することにより、地域文化の振興に寄与することを目的とした施設です。木屋瀬の江戸時代を中心とした資料を展示している「みちの郷土史料館」、芝居小屋の外観を持つ多目的ホール「こやのせ座」などがあります。こやのせ座の建築様式は、大正時代に木屋瀬にあった芝居小屋「大正座」をモチーフとしています。



(2) 推進していく主な取組み

○ 企画展・記念館事業の実施

木屋瀬の歴史・文化等に係る展示のほか、テーマを広げた企画展、施設を生かした事業を実施します。

○ ボランティアなどの育成

「木屋瀬宿まちなみ案内ボランティア」の養成講座を行い、ボランティアを育成します。

